



GESCHIRR  
W3200 D900 H 700  
ガラス  
2017.12

はじめに

本論は、器という造形に性があるのではないかという仮定を踏まえ、男性的な器、女性的な器とは何かを調査し、そのどちらでもないジェンダーレスな器とはどのような要因で成立するのかを論究したものである。筆者自身がガラスを用いて器の制作を行うなかで、器の造形には男女の性差があり、またそのどちらでもないジェンダーレスな器が存在するのではないかという疑問を持ったことから本研究を行うに至った。そこで、器の造形における性別を判断する客観的資料を集めるために、器の造形要素を形、色、テクスチャ、重さの4要素に分け、18歳から45歳までの男女100名を対象に実際に指定の器10個を手にとってもらい、その4要素についてどのように性を感じるかを回答してもらうアンケート調査を行った。その後、筆者自身の仮説とアンケートの調査結果を比較検討し、器の造形における性が如何なるものであるかを明らかにして、ジェンダーレスな器とはどのような条件で成立するのかを考察した。

第1章 本論における器の造形と性についての諸定義

第1章では、本論における器の定義と性についての定義を記している。まず、器の語義を示し、本論内で扱う器を、食器、カップなど、食事のために飲食物を入れ置くための容器に限定した。また、器を構成する造形要素に形、色、テクスチャ、重さがあるとして、それぞれを定義した。次に、ジェンダーとセクシュアリティを区別したうえで、本稿内で扱う性とは、文化的性差という概念を基盤に発展した、男女を二項化する働きを持つジェンダーであるとし、その男女を二項化する働きを消去する概念をジェンダーレスであるとした。

第2章 筆者が仮定する造形要素に対する性意識

第2章では、男らしさ、女らしさといったジェンダースキーマを通じて、ガラス器の造形要素である形、色、テクスチャ、重さがどのように性別ラベリングされるか、ガラス器

に対する性意識についてのアンケート調査の前の仮説として、筆者自身が性別ラベリングを行なった。男性的な器の造形については、武骨である・ゴツゴツとしている・力強いというような要素を持つ形、寒色系・明度が低いといった色、凹凸がある・ザラザラしている・目が粗いテクスチャ、形の見た目よりも重たいものが男性的な器の造形要素の特徴であると仮定した。一方で女性的な器の造形については、曲線的・スムーズ・柔和な形、暖色系・明度が高い・パステルカラーといった色、さらさらとした・目が細かいテクスチャ、形の見た目よりも軽いものが女性的な器の造形要素の特徴であると仮定した。

第3章 ガラス器に対する性意識についてのアンケート調査

第3章では、前章の筆者自身の器の造形要素に対する性意識の仮説と、他者が持つ器の造形に対する性意識とを比較検証するために、【ガラス器に対する性意識についてのアンケート調査】を行い、その調査方法と、調査結果について記している。アンケートは東京都、茨城県の18～45歳100名を対象とし、評定尺度法を用い、5段階評価によって回答を得た。形、色、テクスチャ、重さのそれぞれに対し、とても男性的である、男性的である、どちらでもない、女性的である、とても女性的である、の5段階のなかから選択を求めた。本調査で扱う器は、前章で提示した仮定に沿って、4要素ごとに有意な回答が得られる可能性が高いもの10個を選定した。調査の集計結果として、器造形における性の有無を明らかにするうえで、各要素ごとの回答に有意の差がみられ、仮定として提示した条件にほぼ近い結果が得られた器があった。その結果から、器造形には性の有無が存在ということは明らかであるといえる。また、器の造形の性を認識する際には、色がそれを決定付けるうえで優位な可能性があるということがわかり、4要素内でも性を認識するうえで優先順位があると考えられる。しかしながら、それについての確証を得るためには本調査だけでは不十分であり、それを論究するには、4要素に認知の順位があり、

また色を優位であると仮定したうえで他の要素がどのように感知され、性の認識に明らかかな影響を及ぼしているか、などの比較検証がさらに必要である。

第4章 ジェンダーとガラス器

第4章では、第2章の筆者の仮説と、第3章の調査の結果を比較し、男性的な器の造形が持つ特徴、女性的な器の造形が持つ特徴を提示したうえで、ジェンダーレスな器の造形とはどのようにして成立させることができるのかを考察した。男性的な器の造形は、明度の低い寒色もしくは無彩色で、直線のまたは厚み、ボリュームのある形、ザラつきのある手触りや凹凸のあるテクスチャで、重量のあるものであると認識され则认为られる。一方で、女性的な器の造形は、暖色もしくは明度が高い色で、有機曲線を有する形、サラサラとした質感や目が細かいテクスチャで、軽量のものであると認識されると考えられる。また、ジェンダーレスな造形とは、男性的な形、女性的な形を立体装飾で織り交ぜた形、寒色や無彩色といった男性的な色、ピンクを初めとするパステルカラーなどの女性的な色を組み合わせた配色といった要素によって成立するのではないかという仮説が立てられた。

第5章 研究報告書

修了制作〈GESHIRR〉について、第4章までに導き出した器の造形とジェンダーの関係性を意識し、それを自身の制作にどのように反映させたかを、制作仮定や技術的内容と共に書き記した。

おわりに

本稿における一連の仮説と調査、制作を通して、ガラス器の造形には形、色、テクスチャ、重さの4要素に基づいて男女の性差がみられ、各要素の条件を踏まえることでジェンダーを有する器を制作することが可能であるということが明らかになった。また、ジェンダーレスな造形を成立させる条件についても仮説が立てられ、それについては再度、客観的な意見を収集するなどの検証が必要であることがわかった。